

芦原小学校の ESD 活動

<活動の概要>

本校では、「多様性の認識を軸とした学校と地域づくり」を活動テーマに校内の樹木の多様性を知ることから出発し、様々な多様性について学習活動を展開している。草花や野菜の栽培を通して多様性の認識の範囲を広げ、校区の歴史や防災教育にまで、多様性を軸とした教育活動を展開したい。

・活動の実際

① 植物の多様性を知る活動

- ・校内の樹木約 80 種に樹木名表示器「この木なんの木」を設置。これを活用して楽しみながら名前や特徴を覚えられるようにする。
- ・「この木なんの木」を活用するため緑化委員会によるキャンペーン活動が行われている。キャンペーンの期間中、校内を走り回って木を探す子どもたちの姿が見られる。
- ・農園で野菜や花や米を栽培する。自然界では様々な植物がそれぞれの方法で環境に適応しながら生きていることを知る。児童が自然に親しみながら植物を育てる体験を通して自然の大切さを学ぶ。



① 「この木なんの木」

② 人々の多様性を知る活動

- ・様々な職業のゲストティーチャーを教育活動に招く。
- ・地域の農家の方にゲストティーチャーとして野菜や米の育て方を学ぶ。野菜を大切に世話をして、おいしい野菜が実ることで、野菜を育てる苦労や、収穫の喜びを知る。



②-1 農家の方に学ぶ稲刈り



②-2 校区を走る電車について学ぶ

③ 地域や社会の多様性を知る活動

- ・自分の住んでいる町の特徴を知り、よりよい故郷になるよう、環境美化や景観づくりの活動を行う。
- ・絆コスモスの植栽。プランターに、種から育てたコスモスの苗を移植する栽培活動を行う。このコスモスの種は東日本大震災で被災した渡波中学校からいただいたものを毎年 6 年生が栽培し、5 年生に受け継いできたものであり、今年で 10 年目の活動となる。



③ 絆コスモス取り組み